

# 現場訪問

## 多様性を重視したケアを実践する スタッフの建物への思いを知る

今回のIGPで行くは東京都小平市にある社会福祉法人黎明会さん。同行してもらったのはIGPメンバーである株式会社LIXILの腰山さん、三橋さん、岩田さん。今回は同法人の介護老人保健施設を重点的に見学させていただきました。今回は同法人の介護老人保健施設を重点的に見学させていただきました。今回は同法人の介護老人保健施設を重点的に見学させていただきました。今回は同法人の介護老人保健施設を重点的に見学させていただきました。



訪問した人  
**奥山美奈**  
TNサクセスコーチング  
株式会社代表取締役

### 入所者の好みに合わせて 多様性を重視したケアを実践

社会福祉法人黎明会は南台病院（一般病床36床・医療療養型病床54床・地域包括ケア病床32床）をはじめ、介護老人保健施設や特別養護老人ホーム、救護施設、グループホームなどの介護施設のほか、訪問看護や訪問介護、デイサービスなど、総合的な福祉サービスを展開しています。今回、南台病院を片岡看護部長に、老健「けやきの郷（入所定員100人）」を阿部和也施設長に案内してもらいました。

「けやきの郷」でもとても印象的だったのは、入所者の皆さんが活気にあふれ、いきいきと楽しく活動されていたことです。この背景



には「多様性を重視したケア」の提供があると感じました。老健では一般的に入所者全員が集まってレクリエーションなどの活動を行っています。それに対して、「けやきの郷」



### 快適性・安全性を左右する 居室の「戸」の重要性

では、いくつかの小グループにわかれて、それぞれ自分たちの好きな活動をやっているのです。あえて非効率的な取り組みをしているところに入所者の多様性に配慮したいという強い気持ちを感じます。

団塊世代以降の高齢者は個人の主張が強く、多趣味な世代なので、多様性を鑑みたサービス提供が必要になる——という勉強をしながらIGPメンバーは、自分たちの一歩先行く「けやきの郷」での取り組みと入所者の様子を観察できたことは、学習と体験につながりました。

筆者は元看護師ですが、私が現役だったころのデイサービスと今とでは、サービスの質がガラリと変わったなと実感しています。

以前は高齢者施設やデイサービスのレクリエーションは利用者がホールに集められて、一斉に童謡を歌ったり、ハンドベルを持たせられて演奏に半強制的に参加させられたりしていたような気がしますが、今、支援先のデイサービスなどを見ているとスタッフに「ビートルズの曲かけてくれよ」など高齢者のリクエストが確実に変わってきたと感じます。

見学中、「けやきの郷」の入所者の1人が、阿部先生を見つけるとすぐに駆け寄ってきて、「私、この先生が大好きなのよ」と抱きつくシーンを目の当たりにしました。信頼されている様子がうかがえるとともに、和やかな気持ちで見学をさせてもらいました。

いくつかの居室を見せてもらうと、トイレのドアはカーテンになっていたりすることがありました。ここから次のようなディスカッションになりました。

**IGP 腰山** 臭いや湿度が気になるということはないですか。

**介護士** そうですよ、でも慣れちゃいましたかね。

**腰山** 臭いや湿度を吸着する壁紙があるんですよ。

**介護士** そんなのがあるんですか。それはいいですね。

**腰山** 自社の製品のすばらしさをもっともつと現場の方々に伝えていかなければいけませんね。

**IGP 三橋** 居室はほとんど引き戸でしたが、使いやすいでしょうか、もつとこうなつたらいいのにといいことはあります。

**介護士** 認知症がある方が、引き戸を力強く閉めたりしたとき、跳ね返ってきて戸が身体を直撃することがあり、危ないですよ。軽く閉まるのはとてもスタッフ側にはいいんですけど……。

基本的に居室の戸って、夜はプライバシーに配慮して閉めるんですけど、認知症が進んでいる方に閉めてはすべて戸を閉めてしまう

と、転倒したりした時、ドスンという音が聞こえなくなってしまうので半分あけていたりするんですよ。途中で止められる戸だとありがたいなと思いますね

**三橋** なるほど。逆に音が聞こえやすいドア！ 現場では『ドアII遮音』ではないんですね、我われにとつては逆転の発想です。いやあ、勉強になります

**介護士** 逆にドアの鍵は『ガチャ』っていう音が本当に静かだと助かります。その音でおきちやう方がいるんで……。換気扇！あれも結構夜中音が響くんですよ

**IGP 岩田** トイレが自動で流れる製品、うちでもあるんですが、そういうものは現場の方々の介護負担の軽減になってますか？

**看護師** イヤ、あれは本当に老健とかでは困るんですよ。認知症

がある人だとお通じがあったのかどうかの答えがあやふやな方もいるのでそういう方の場合には排泄物の確認が必要なんです、勝手に流れてしまうとダメなんです。血便とか血尿とか、そうしたことを観察することもできなくなるんですよ。

**岩田** 便利な製品も場所によっては迷惑になるってことですね、そうかあ。そうなのかあ。

現場の見学は、新しい商品やサービスの開発はもちろん、既存の商品やサービスの提案の仕方などを考えるうえで勉強になります。特に今回は「医療・介護側の視点」を得ることができた点で大きな意義があったと思います。

開発のヒントをたくさんもらった突撃訪問の帰り道、IGPメンバー同士で「現場との共同開発と現場の声を教えてもらおうってやつぱり重要だね」「こんな製品つくつたらどうですかね？現場の方、喜ぶんじゃないですかね」などと、興奮冷めやらぬ、ディスカッションに花が咲きました。お忙しい中、取材にご協力いただきました。社会福祉法人黎明会の皆様、本当にありがとうございます。